



自治体の紹介

背景

日本百名山の一つに数えられる飯豊山の麓に位置する農村地域
 人口：6,530人（令和4年12月31日時点）
 特産品：米（つや姫、雪若丸、はえぬき）、米沢牛（約4割生産）

- ・「日本で最も美しい村」連合加盟（平成20年加盟）
- ・SDGs未来都市認定（2018年認定）
- ・ゼロカーボンシティ宣言都市（2020年）

- ・人口減少...町内唯一の高校が統廃合により閉校（H25年3月）
- ・産業衰退...町内企業が工場の統廃合により閉鎖（H25年3月）



逆境を跳ね返すための1手

現状の課題

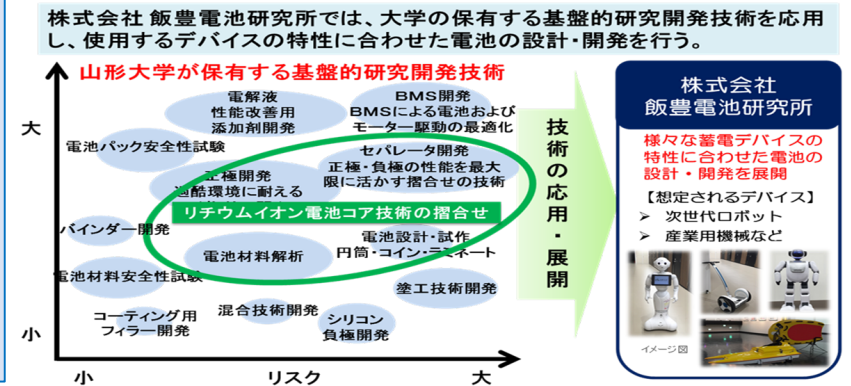
<飯豊電池バレー構想>

撤退企業の工場跡地に産学官連携事業として山形大学工学部の研究室を誘致、リチウムイオン電池の研究開発拠点を整備。電池材料の開発から組み立て、性能評価、安全性試験までの全工程を行うことができる一気通貫型の施設。

事業化段階に入った現在は、構想発のベンチャー企業を中心に電気自動車のリバーエンジニアリングをはじめとしたリチウムイオン電池の開発研究事業が行われている。



飯豊町起業支援施設（xEV飯豊研究センター）



リバーエンジニアリングの技術で電気自動車の研究ができないか？

これまでの取組



事業の目的

令和5年4月に**電動モビリティシステム専門職大学**が開学
 電気自動車や自動運転技術に特化した**世界初**の高等教育機関
 ⇒高度技術人材の育成・輩出
 大学を核とした地域課題の解決
 交流人口拡大を活かした地域活性化

企業・社会人向けの
 リスキング教育も
 実施予定

<専門職大学とは？>
 文部科学省が**2018年**に新しく制定した高等教育機関
 通常の大学と異なり、一般教養科目の講義を行わず、実験、実習、臨地実務実習
 （インターンシップ）を通じて実践的な教育を行うことが特徴です。
 卒業時には「学士（専門職）」の取得が可能です。
 ⇒**即戦力の技術者、研究者を養成する4年制大学**です。（← Not 専門学校）

電動モビリティシステム専門職大学（校舎外観）



事業内容

- <想定される事業>
- 大学における教育活動・研究活動の支援
 例) 運営支援、設備導入支援
 - 地域課題解決に向けた大学との共同研究
 例) 地域交通、交通弱者対策
 電気自動車、自動運転普及拡大事業
 - 大学生の生活環境の充実、支援
 例) 奨学金制度の拡充
 学生アパート整備、拡充
 町内満喫ツアーの実施



持続可能性ある技術でSociety5.0に貢献できる

モビリティシステム工学科
電気自動車工学

電池



モーター



軽量



自動化



地域と国内外で活躍する中堅・即戦力を有する開発エンジニア育成





得られる
成果等

<得られる成果>

- ・電気自動車や自動運転に関する高い技術を持った人材を輩出することができる。
⇒人材をより多く輩出することで、日本のゼロカーボンの取組みを加速させることができる。
- ・飯豊町に学生が流入し、定着することで人口減少問題に歯止めをかけることができる。
- ・若年層の増加により、産業の創出、流入が期待され、地域の活性化につながる。

<ご協力いただきたいこと>

★『電動モビリティシステム専門職大学』が「山形県飯豊町」に開学することを知っていただきたい

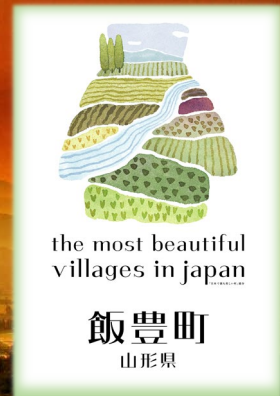
- ・企業版ふるさと納税等を活用した寄附のご支援
- ・地域課題解決に資する研究の支援・協力

<企業様のメリット>

- ・技術者育成、人材確保のための拠点整備に貢献することができる。
- ・企業様の持つ知見やアイデアと飯豊町の地域課題、専門職大学の知見を融合させ、新たな事業モデルを創出することができる。

⇒本町へ寄附をいただいた場合には、町広報紙や町HPへの掲載によりその貢献を周知させていただきます。

寄附を
する
メリット
等



【連絡先】

飯豊町 商工観光課 産業連携室
TEL:0238-87-0569（直通）
Mail:i-sangyo@town.iide.yamagata.jp